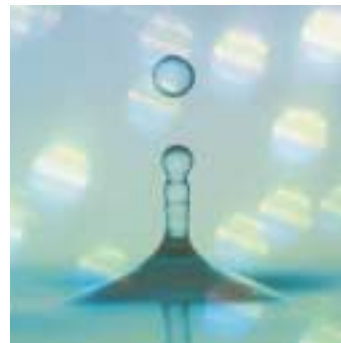


## 株主メモ

決算期	6月30日
定時株主総会	営業年度末日の翌日から3ヶ月以内
基準日	定時株主総会 6月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ 公告して定めた日
権利確定日	利益配当金 6月30日 中間配当金 12月31日
名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	(住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417 (其他のご照会) ☎ 0120-176-417
(インターネット・ホームページURL)	<a href="http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/sevice/daiko/index.html">http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/sevice/daiko/index.html</a>
同取次所	住友信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
公告の方法	日本経済新聞 但し、商法特別法第16条第3項に定める 貸借対照表及び損益計算書に係る情報は <a href="http://www.pss.co.jp">http://www.pss.co.jp</a> において提供する。



### PSSホームページをご利用ください！

当社の事業活動に関する報告・ニュースをタイムリーに掲載しています。是非ご覧ください。

URL <http://www.pss.co.jp>



### ～広報・IR室からのお知らせ～

PSSでは2003年3月に、個人投資家の皆様向けに、計3回の企業説明会の開催を予定しております。株主の皆様におきまして是非ご参加ください。詳細は下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

- 3/8 (土) 鉄鋼会館(大手町)
- 3/11(火) 東証アローズ(茅場町)
- 3/15(土) 三田NHホール&スペース(三田/田町)

プレジジョン・システム・サイエンス株式会社 経営企画部 広報IR室

〒271-0064 千葉県松戸市上本郷88  
TEL:047-303-4800 FAX:047-303-4810  
お問い合わせメール:ir@pss.co.jp

## 第18期 中間事業報告書

平成14年7月1日～平成14年12月31日



## PSS Dream...

それは  
バイオ・システムを通じた人類「ヒト」への貢献

Technology = Simple is Best PSSはそう考えます。

Key Wordは[Magtration® Technology]

磁石と磁性微粒子、そして分注機...

たった3つで構成されるTechnologyは

業界の技術概念を逆転させた発想から生まれました。

PSSはこれからもバイオ・システムの新提案を続けます。



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに、第18期中間事業報告書（平成14年7月1日～平成14年12月31日）をお届けするにあたり、日頃の格別の御支援、御理解に心より厚く御礼申し上げますとともに、一言ご挨拶申し上げます。

- 黒字達成を掲げスタートした当期 -

当社では、全社そしてグループ一丸となって、皆様にお示した目標を達成すべく、日夜取り組んで参りました。当中間期は、7月の「Magtration System 6GC」の新発売、8月のQIAGEN社との業務提携など、平成13年2月の株式上場以降、PSSが一貫して取り組んで参りましたことが、ひとつひとつ形となって現れてきた期でございました。と同時に、Roche社を始めとする既存取引先との取引拡大や、新製品発売及び新たに業務提携先となったQIAGEN社向け製品出荷の好調などが功を奏し、事業拡充への大きな一歩を歩み出した期でもございました。当中間期におきましては、一部売上が繰延べられたことなどから、若干当初見通しを下回るものとなりましたが、受注も好調であることから、通期では必ずや黒字達成できるものと確信しております。

株主の皆様におきましては、遺憾ながら、当中間期は無配とさせていただきますが、今後のPSSの飛躍にご期待いただき、一層の御支援、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成15年2月

代表取締役社長  
田島秀二



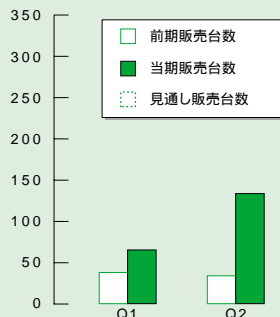
## PSSシステムは急激に市場浸透しています・・

PSSの [Magtration® Technology]は「DNA抽出の自動化」という大きな技術革新を起こしました。

そして 今 PSSのシステムはグローバル・マーケットに急激に浸透を始めました。

PSSは バイオ研究に欠かせない技術や試薬をもつ Roche社(スイス)やQIAGEN社(オランダ)など何れもこの業界の世界的優良企業であるパートナーを通じて世界市場に羽ばたいています

## •Track of Magtration® System



当期のQ3及びQ4の販売台数は、受注残高を参考にした見通しです。

## What's Magtration® ?

Magtration® Technologyとは「Magnetic Filtration」を縮めた造語で、磁石により振り分けることを意味します。基本原理は、磁性微粒子でDNAなど目的物質を捕獲し、これを磁石と分注機で制御するという、とてもシンプルなものです。これにより化学反応工程の自動制御が可能となるのです。また磁性微粒子のコーティング素材をかえることにより、遺伝子解析だけでなく、免疫測定やプロテオーム解析にも応用できるフレキシブルな技術でもあります。



\* Magtration® は、世界10数カ国に特許出願・登録を行っているPSSの商標登録です。

## It's Simple & Flexible!

~PSSシステムはこんなところでも活躍しています~

### 皆さん 献血をされたことがありますか？

今、日本では、献血により集められた血液は、必ずHIV、HCVなどの感染症検査が行われています。これは日本赤十字センターが、世界に先駆け、感染症検査に遺伝子検査を取り入れたものです。そしてここで活躍しているのが、PSSのシステムなのです。このシステムはRoche社(ロシュ)を通じて日本赤十字センターでご利用いただいています。

~2002年の新提案 Magtration System 6GCシリーズ~



このシステムは、新概念「ICカード&プレバック試薬方式」により、従来にない小型化・簡単操作を実現したシステムです。2002年7月の新発売以来、直販・OEMを通じて順調に出荷しています。PSSは、常に市場ニーズを先取りした新提案をしています。

## DNA二重らせん構造の発見から50年.. 今 時代がPSSを追いかける

20XX年 時代は遺伝子診断へ

2003年 PSSは 世界初

全自動遺伝子解析装置[ NIAGALA Bio-Station FDx]を  
実現しました。

そして PSSは

先行する USA & Europeマーケットに  
一石を投じたいと思います。

NOW

PSSのTechnology Magtration<sup>®</sup>  
とBio-Strand<sup>®</sup> の融合により実現した  
[ NIAGALA Bio-Station FDx]  
(ナイアガラ・バイオ・ステーション)

これまで数日間を要した作業  
~ サンプル(例えば血液)input から  
解析データoutputまで~を  
わずか3時間半で処理できます  
PSSはまたもや常識を覆しました



Bio-Strand<sup>®</sup> Tip



[ NIAGALA Bio-Station FDx]

シーケンサーというシステムの開発により、  
ヒト遺伝子配列の解読が実現  
遺伝子・タンパク質の機能解析が本格的にスタート！

ワトソン&クリック博士による  
DNA二重らせん構造の発見

1953年

## ~Promotion & Investor Relations in the first half of 2003~

Lab Automation 2003(米)に出展

会社説明会(機関投資家)開催

第7回創薬ゲノム展(日本)に出展

会社説明会(個人投資家)開催(計3回)

国際バイオEXPO2003(東京)出展

BIO2003 ANNUAL CONVENTION(米)出展

200X年

2003年

2000年



## 1. 当中間期の概況

当中間期のわが国経済は、前年度に引き続き厳しい状況のまま推移し、追い討ちをかけるように金融機関における不良債権処理問題も深刻化してきました。日本経済の混迷はますます深まっているように思われます。こうした状況の下、今後の発展が期待される遺伝子関連業界におきましては、まさに百花繚乱のごとく、様々な技術が開発・研究されております。現在のバイオ産業は、ようやく、臨床の前段階であるDNA構造・機能解析などの基礎分野の構築に至りましたが、今後は、この段階から臨床分野への応用・移行が課題になってくるものと思われます。

さて、当社グループにおきましては、平成14年8月にゲノム試薬の世界トップクラスの企業であるQIAGENグループとの新たなOEM契約の締結に成功いたしました。同社グループは、当社のOEM先であったノルウェー企業GenoVision社を買収し、そのOEM製品をそのまま引き継ぎました。したがって、既に9月から製品出荷が開始されており、当社にとってはRocheグループと並ぶ大口取引先となってきています。

また、三菱化学メディカル(株)からの依頼に基づき、平成14年11月には小型免疫化学発光測定装置の開発に成功いたしました。今後、装置仕様等の詳細を詰め、同社との正式OEM契約を締結する予定であります。当中間期は、QIAGENグループとの取引開始が大きく貢献し、連結売上高は847百万円(前年同期比64.0%増)と大幅な増収を確保いたしました。また、既存製品のコストダウンも功を奏し、粗利率は前年同期比で5.5ポイント改善し37.1%となりました。その結果、売上総利益は314百万円(前年同期比92.7%増)と大幅な増益を確保いたしました。

しかしながら、開発費138百万円や海外3子会社の経費負担を吸収しきれず、営業損失144百万円(前年同期比126百万円の減額)、経常損失147百万円(前年同期比129百万円の減額)となりました。研究開発活動や海外展開にかかる費用は、現時点では収益圧迫要因ではありますが、当社グループの事業展開上、必要不可欠な先行投資と考えております。

各製品区分別の販売状況は、以下のとおりであります。

### ① DNA自動抽出装置等

当区分は、当社の国際特許技術であるMagtration<sup>®</sup> Technology(マグトレーション・テクノロジー)を利用した自動化装置の区分であり、DNA自動抽出装置の他、免疫化学発光測定装置も含んでいます。DNA自動抽出装置は、近年、その需要が発生したばかりであり、今後、市場の拡大が十分に見込めるものと当社は考えております。

当中間期は、QIAGENグループとの取引開始が大きく貢献し、202台の販売実績で売上高523百万円(前年同期比86.9%増)となりました。

### ② その他理化学機器

当区分は、Magtration<sup>®</sup> Technology以外の自動化装置や助成金等による開発受託売上を計上しています。当中間期は、特注の分注装置の販売を中心に売上高32百万円(前年同期比30.0%減)となりました。現在は、当社の特許技術であるMagtration<sup>®</sup> Technologyの事業拡大に注力している関係から、当区分の売上に占める割合は減少傾向にあります。

### ③ その他製品

装置メンテナンスやスペアパーツ(交換部品)販売を中心に売上高52百万円(前年同期比24.6%減)となりました。前期まで本区分に含まれていた自社加工の消耗品については、全て外注先からの仕入に変更したため、今年度より「商品」区分へ変更しております。前年同期から同消耗品の売上を除外して比較しますと、前年同期比64.4%増となります。

### ④ プラスチック消耗品(商品)

商品のプラスチック消耗品は、売上高239百万円(前年同期比97.7%増)となりました。前期まで「その他製品」に区分されていた自社加工の消耗品について、今年度より本区分に変更しております。前年同期に同消耗品の売上を加算して比較しますと、前年同期比51.0%増となります。

プラスチック消耗品は、DNA自動抽出装置に使用される使い捨てタイプの消耗品が中心であり、装置の累計出荷台数に応じて販売拡大が見込める性質があるため、今後も順調に伸長していくものと考えております。

## 2. 通期の業績見通し

下期に関しては、Roche社やQIAGEN社を中心に、DNA自動抽出装置の受注が積み上がっており、順調な業績推移が予想されます。したがって、通期では下記のとおり当初予想程度の業績に着地するものと考えております。

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結業績予想	2,550	25	0	0
業績予想(単体)	2,400	125	100	100

## 中間連結貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

科 目	前中間期 平成13年12月31日現在	当中間期 平成14年12月31日現在	前期末 平成14年6月30日現在
<b>(資産の部)</b>			
流動資産	1,826,164	1,461,892	1,365,739
現金及び預金	1,083,897	649,020	730,176
受取手形及び売掛金	305,208	432,293	384,416
たな卸資産	295,928	307,796	191,246
その他	141,281	72,987	60,090
貸倒引当金	151	205	190
固定資産	909,874	977,441	937,628
有形固定資産	864,546	926,911	868,385
建物及び構築物	262,905	259,553	258,709
土地	431,250	431,250	431,250
その他	170,389	236,107	178,425
無形固定資産	1,718	5,426	4,395
投資その他の資産	43,609	45,104	64,848
資産合計	2,736,038	2,439,334	2,303,368
<b>(負債の部)</b>			
流動負債	940,718	1,120,301	879,264
買掛金	159,226	283,912	224,957
短期借入金	590,000	413,672	166,668
一年内返済予定の長期借入金	147,990	318,028	300,649
賞与引当金	2,459	3,310	8,561
その他	41,041	101,377	178,427
固定負債	680,076	605,221	585,870
長期借入金	680,076	605,221	585,721
繰延税金負債	-	-	148
負債合計	1,620,795	1,725,523	1,465,134
<b>(資本の部)</b>			
資本金	862,003	-	862,003
資本準備金	1,328,025	-	1,328,025
欠損金	1,090,175	-	1,353,808
その他有価証券評価差額金	-	-	209
為替換算調整勘定	15,389	-	1,804
資本合計	1,115,243	-	838,234
資本金	-	875,153	-
資本剰余金	-	1,341,438	-
利益剰余金	-	1,505,775	-
その他有価証券評価差額金	-	4,523	-
為替換算調整勘定	-	7,518	-
資本合計	-	713,810	-
負債、少数株主持分及び資本合計	2,736,038	2,439,334	2,303,368

## 中間連結損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

科 目	前中間期 自平成13年7月1日 至平成13年12月31日	当中間期 自平成14年7月1日 至平成14年12月31日	前期末 自平成13年7月1日 至平成14年6月30日
売上高	516,995	847,879	1,345,918
売上原価	353,778	533,305	884,787
売上総利益	163,216	314,573	461,130
販売費及び一般管理費	434,282	459,466	978,746
営業損失	271,065	144,892	517,615
営業外収益	8,953	10,863	14,714
受取利息	5,403	1,477	8,887
為替差益	756	4,311	757
その他	2,793	5,074	5,069
営業外費用	15,483	13,968	26,873
支払利息	13,325	13,598	25,100
その他	2,158	369	1,773
経常損失	277,596	147,997	529,774
特別利益	-	1,030	113
特別損失	40,645	499	50,810
税金等調整前中間(当期)純損失	318,242	147,466	580,471
法人税、住民税及び事業税	1,461	1,259	2,865
法人税等調整額	-	3,241	-
中間(当期)純損失	319,704	151,967	583,337

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：千円)

科 目	前中間期 自平成13年7月1日 至平成13年12月31日	当中間期 自平成14年7月1日 至平成14年12月31日	前期末 自平成13年7月1日 至平成14年6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	266,599	311,589	263,269
投資活動によるキャッシュ・フロー	20,126	99,750	63,906
財務活動によるキャッシュ・フロー	329,558	310,446	35,469
現金及び現金同等物に係る換算差額	14,911	1,707	1,804
現金及び現金同等物の増加額	97,996	99,186	360,841
現金及び現金同等物の期首残高	1,014,457	653,616	1,014,457
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	10,000	-
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	1,112,454	564,429	653,616

## 中間単体貸借対照表(要旨)

(単位：千円)

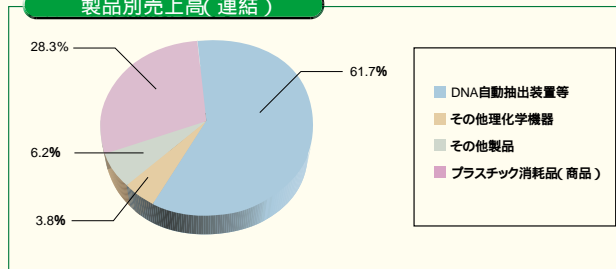
科 目	前中間期 平成13年12月31日現在	当中間期 平成14年12月31日現在	前期末 平成14年6月30日現在
<b>(資産の部)</b>			
流動資産	1,549,951	1,322,081	1,159,439
現金及び預金	813,875	527,463	544,223
受取手形	30,465	11,743	41,022
売掛金	274,722	416,508	342,376
たな卸資産	295,752	304,673	189,200
その他	135,286	61,904	42,806
貸倒引当金	151	213	190
固定資産	1,228,346	1,289,540	1,273,563
有形固定資産	816,064	862,674	837,911
建物及び構築物	262,905	259,553	258,709
土地	431,250	431,250	431,250
その他	121,907	171,871	147,951
無形固定資産	1,220	4,521	3,330
投資等	411,061	422,344	432,321
子会社株式	262,213	272,213	272,213
子会社出資金	107,520	107,520	107,520
その他	41,327	42,610	52,587
資産合計	2,778,297	2,611,621	2,433,002
<b>(負債の部)</b>			
流動負債	936,456	1,099,582	871,840
買掛金	158,238	282,401	223,158
短期借入金	590,000	413,672	166,668
一年内返済予定の長期借入金	147,990	318,028	300,649
賞与引当金	2,459	3,310	3,086
その他	37,767	82,169	178,276
固定負債	680,076	605,221	585,870
長期借入金	680,076	605,221	585,721
繰延税金負債	-	-	148
負債合計	1,616,533	1,704,804	1,457,710
<b>(資本の部)</b>			
資本金	862,003	-	862,003
資本準備金	1,328,025	-	1,328,025
欠損金	1,028,265	-	1,214,945
その他有価証券評価差額金	-	-	209
資本合計	1,161,763	-	975,292
資本金	-	875,153	-
資本剰余金	-	1,341,438	-
利益剰余金	-	1,305,251	-
その他有価証券評価差額金	-	4,523	-
資本合計	-	906,816	-
負債資本合計	2,778,297	2,611,621	2,433,002

## 中間単体損益計算書(要旨)

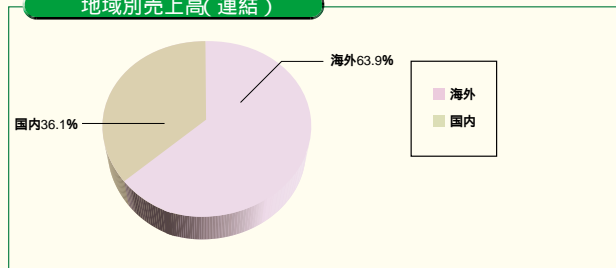
(単位：千円)

科 目	前中間期 自平成13年7月1日 至平成13年12月31日	当中間期 自平成14年7月1日 至平成14年12月31日	前期末 自平成13年7月1日 至平成14年6月30日
売上高	571,038	814,099	1,340,901
売上原価	353,813	526,370	886,975
売上総利益	163,224	287,729	453,925
販売費及び一般管理費	368,398	368,770	824,589
営業損失	205,173	81,040	370,664
営業外収益	4,966	8,135	5,956
受取利息	1,416	64	1,566
為替差益	756	4,311	-
その他	2,793	3,758	4,388
営業外費用	15,479	13,968	26,813
支払利息	13,320	13,598	25,061
その他	2,158	369	1,751
経常損失	215,686	86,873	391,521
特別利益	-	1,030	113
特別損失	40,645	155	50,301
税引前中間(当期)純損失	256,332	85,998	441,709
法人税、住民税及び事業税	1,461	1,065	2,764
法人税等調整額	-	3,241	-
中間(当期)純損失	257,794	90,305	444,474
前期繰越損失	770,470	1,214,945	770,470
中間(当期)末処理損失	1,028,265	1,305,251	1,214,945

### 製品別売上高(連結)



### 地域別売上高(連結)



## 会社概要 (平成14年12月末現在)

商号 プレシジョン・システム・サイエンス株式会社  
(英文社名) Precision System Science Co., Ltd.

設立年月日 1985年7月17日

役員  
代表取締役社長 田島 秀二  
常務取締役 小幡 公道  
取締役 高橋 正明  
取締役 長岡 信夫  
取締役 中島 保泉  
取締役 秋本 淳  
取締役 松野 卓也  
監査役 高橋 達雄  
監査役 寛 悦夫  
監査役 鈴木 啓靖

資本金 875百万円

従業員数 63名 (海外子会社役員、パートを含む)

連結子会社  
PSS Bio Instruments, Inc.(USA)  
Bio-Strand, Inc.(USA)  
Precision System Science Europe GmbH  
(Germany)  
ユニバーサル・バイオ・リサーチ株式会社  
(日本)

事業内容 遺伝子・プロテオーム解析関連業界における研究開発やその研究成果の実用化に用いられる自動化装置、その他自動化システム、ソフトウェア等の開発および製造販売、ならびに自動化装置に使用される試薬及びプラスチック消耗品の製造販売等

## 株式の状況 (平成14年12月末現在)

会社が発行する株式の総数 .....133,984株  
発行済株式の総数 .....34,548株

(注)平成14年11月8日付の新株引受権の権利行使により、発行済株式の総数は1,052株増加しております。

株主数 ..... 3,287名

### 大株主

株主名	持株数	持株比率
	株	%
田島秀二	10,933	31.65
有限会社ユニテック	3,000	8.68
投資事業組合YNED	470	1.36
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	431	1.25
UFJ信託銀行株式会社(信託勘定A口)	384	1.11
株式会社ジャフコ	376	1.09
日興シティ信託銀行株式会社(投信口)	250	0.72
ステート ストリート ハウ アンド トラスト カンパニー 505030	250	0.72
プレシジョン・システム・サイエンス従業員持株会	244	0.71
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	243	0.70

### 所有者別株式分布表

